

清瀬の子供たちの力で社会を変えよう！

*しょうがっこうていがくねんのこどもたちは、したのぶんしょうを、おうちのひとによんでもらって、いっしょにとりくんでみましょう。

*緊急事態宣言が発令され、楽しみにしていたレジャーや旅行が難しくなってしまった今年の夏休み。とても残念ですが、一方ではこれまでとはまた違ったステイホームの40日間とすることもできるはずです。

*私たち5人の教育委員は、清瀬の学校に通う子供たちが、コロナに決して負けることなく力強く成長し続けてほしいという願いのもと、二つのプロジェクトを計画しました。

*一人でも多くの子供たち、ご家族が、私たちが提案するプロジェクトに取り組んでいただきたいと願います。清瀬の小中学生が個人として応募するだけでなく、ご家族単位や友達同士のグループからも受け付けます。また担任の先生+学級の子供たちがリモートで話し合っ作り上げるなど、学級単位での応募も歓迎します。

*締め切りは9月10日（金）です。「コロナ禍の夏休みだからこそできる学び」に挑戦しませんか？

【プロジェクト1：オリンピック・パラリンピックを通して社会を変えようプロジェクト】



コロナ禍で一年延期になった東京オリンピックが始まりました。パラリンピックの開幕ももうすぐです。

アスリートたちにとってこの一年間、如何に練習したくてもそれがままたまらない日々が続きました。努力の成果を確かめられる試合も中止せざるを得なくなり、果たして自分は世界に通用するのか、これまでの積み重ねを信じてよいのか…、心の中は不安でいっぱいだったはずです。

「感染しない、させない」を徹底するために、仲間と会って折れそうになる心を支え合うこともできなかったでしょうし、故郷にいる家族のもとで肩の力を抜きたくてもそれも叶わなかったことでしょう。祖国の代表として期待されているから、不安を口にすることもできないし、弱音を吐くことも許されない…。

世界206の国や地域から集まった選手のだれもが、私たちには想像できないほどの苦しみを乗り越えて、今、オリンピック・パラリンピックのフィールドに立っているのです。1万1千人のすべての選手の胸には、間違いなく「コロナとの戦いに打ち勝った」という金色のメダルが輝いています。

私たち教育委員会は、清瀬の小中学校に通う皆さんに、コロナを乗り越えて、全力で競技に取り組むアスリートたちの姿を自分の目で見、その息遣いと観客の歓声を自分の耳で聞き、その熱気を体全体で感じ

ることで、多くのことを考え、学んでほしいと心から願っていました。しかしオリンピックに関しては無観客の開催が決定し、実現できませんでした。

きっと、皆さんは感染対策をしっかりと守りながら、自宅でテレビなどを通して、アスリートたちを応援してくれているのではないかと思います。



彼らは私たちに、スポーツの喜びを感じさせてくれます。「勇気をもって限界に挑戦してごらん」と誘ってくれます。困難を乗り越えた後には必ず成長がある、ということを教えてくれます。「対戦相手には敬意をもちなさい」と諭してくれます。

正々堂々と戦うスポーツマンシップを身をもって示してくれます。「夢を持って！でも決して夢で終わらせるな！」と心に訴えかけてくれます。そして「私たちと共に、未来への希望とエネルギーをもってコロナと戦おう！」というメッセージを届けてくれます。

皆さんは、彼らの姿から何を感じますか？ 何を学びますか？ 彼らはあなたに何を与えてくれましたか？ 何を考えさせてくれましたか？ あなたは彼らにどんな言葉を届けたいですか？ どんな思いを伝えたいですか？ 私たち教育委員会は、皆さんのオリンピックやパラリンピックに対する想いを知りたいと思っています。

このメッセージを読んできた小中学生の皆さん。オリンピック・パラリンピックを通してあなたが感じ、考え、学んだこと、または選手へのメッセージや、世の中に訴えたいこと等を、学校名、学年、氏名と共に原稿用紙に書いて、清瀬市教育委員会教育総務課まで送ってください。詩や俳句、短歌などで表現しても構いません。文章の場合は文字数も自由。もちろんイラストや絵などを入れても構いません。またICTが得意な人はワードやパワーポイントを使うこともOKです。

皆さんから送られた作品のうち、5名の教育委員の心を最も動かした作品については、氏名を含めて教育委員会ホームページで紹介するとともに（匿名を希望する人は、氏名欄にその旨明記してください）、表彰を行う予定です。

【プロジェクト2：コロナに負けるな！プロジェクト】

さて、オリンピック・パラリンピック一色だった夏休みが終わると、いよいよ2学期が始まります。移動教室や修学旅行などをはじめとする様々な学校行事については、教育委員会として計画通り実施するという方針を掲げましたが、コロナの感染状況によっては、この方針通りにはいかないかもしれません。

計画通り実施するには、これ以上の感染拡大を、絶対に防がなければなりません。その一番の方法は、マスク、手洗い、ソーシャルディスタンスを徹底することです。これはコロナ禍では「当たり前のこと」。しかしそれがなかなか守られません。

皆さんにとって大切な学校生活をこれ以上犠牲にしないためにも、先ず、皆さんからこの「当たり前のこと」を実行し、そして周りの人たちに発信してください。皆さんの行動や発信があたかも円を描くように社会に広がっていき、結果的に安心して学校行事が実施できたり、安全に家族旅行ができたり、友達同士レストランで美味しい食事ができたりする環境が取り戻せたならば、これほど素晴らしいことはありません。なぜならコロナをきっかけとして、子供の力で社会を変えることができたのですから。

10年前に起きた東日本大震災。18,000人を上回る人たちが犠牲になった、社会科の教科書にも載っている未曾有の出来事です。津波によって家も財産もすべてを失った人たちが生活する岩手県陸前高田市の避難所でのこと。当時13歳の中学生3人が、沈みがちな避難所生活を明るく元気に送ってほしいとの思いで、ラジオ体操の実施を企画し呼びかけたところ、多くの大人が参加してくれました。参加者からは「あなたたちの前向きさや勇気が、私たちに元気と希望をたくさん与えてくれました」といった感想が多数寄せられ、今もこのラジオ体操は続いているそうです。

震災は被災者から、大切なものをたくさん奪い去っていきました。しかし震災を体験したからこそ、子供たちは自分に何ができるのかを考え、小さな行動を起こし、それがほんの少しかもしれませんが世の中を変える力になったのです。

私たち清瀬市教育委員会は、こういった「小中学生の皆さんがコロナ禍だからこそできること、学べること、成長できること」にどんどん取り組んでいきたいと思っています。コロナ禍でも、小中学生のみんながますます成長していく取り組みを進める、名付けて「コロナに負けるな！プロジェクト」です。

そこで、夏休みを利用して小中学生の皆さんから「コロナに負けるな！プロジェクト」の取り組みを募集したいと思います。

例えば山梨県のある中学校では、生徒会が中心になって「コロナに負けない元気が出る言葉」を募集し、立て看板にして通学路に掲示しています。



例えば千葉県の小学校では、「コロナに負けるな！ 俳句コンテスト」が開かれました。

(最優秀作品) 休校中 わたしをすくった ちはやふる

(優秀作品) 春風が くすぐる頬の やわらかさ

コロナを打ち負かし、世の中を元気にする、清瀬オリジナルの「コロナに負けるな！プロジェクト」の提案を待っています。別紙の応募用紙（原稿用紙でも、ワードやパワーポイントも可）に以下の内容を書いて、教育委員会教育総務課まで、郵便で送ってください。皆さんから送られた提案のうち、5人の教育委員が思わず唖ってしまうような、実現可能な提案については、Hpで紹介するとともに、（匿名を希望する人は、氏名欄にその旨を明記してください）、教育委員会事業として取り組ませてもらいます。

- 1 あなたが提案するプロジェクト名
- 2 学校名、学年、氏名
- 3 プロジェクトの説明（どんなプロジェクトか、私たち教育委員がわかるように、なるべく詳しく説明してください。イラストや絵、写真等を使っても構いません）
- 4 プロジェクトのPR（プロジェクトの魅力を短い言葉でPRしてください）

清瀬の小中学生の皆さん。アスリートたちに負けず「コロナ禍でもどんどん成長する力強い子供」を目指しましょう。教育委員会はそんな力強い皆さんを全力で応援します。さあ、みんなで挑戦しましょう！
「清瀬の子供たちの力で社会を変えよう！」

○各プロジェクトの送付先は以下の通りです。封筒に応募するプロジェクト名（【オリンピック・パラリンピックを通して社会を変えようプロジェクト】や【コロナに負けるなプロジェクト】）を明記の上、以下まで郵送で送ってください。

○応募はいずれか一方のプロジェクトのみでも構いません。たくさんの応募を待っています！

〒204-8511

東京都清瀬市中里5-842 清瀬市教育委員会教育総務課「清瀬の子供たちの力で社会を変えよう！」係

清瀬市教育委員会教育長 坂田 篤
同 職務代理者 宮川 保之
同 教育委員 粕谷 衛
兵頭扶美枝
土屋 佳子